

第7章 謡・唄・歌

高島唱歌（高島郡役所撰）

行進曲風に



9	8	7	6	5	4	3	2	1
三尾の里とはその昔	泰山寺野は 西南 道を尋ねて 青柳の	残れる書院 慕いつつ 仰げば高き 藤の花	白砂清く 流れ来て 橋のほとりの分れより	誰も一度は来て見よや 岩間を落つる八淵の滝	南は大溝 この町は 世に知られたる探険家	湖辺に沿うて南北に 面積 四〇余方里	山城 丹波 越前や 東に琵琶の湖 清く	われらの住める高島は 名に負う近江聖人の
天津日嗣をしらしたる	硯切り出す 阿弥陀山	北に出づれば安曇の里	水尾つらぬく鴨川の	たぐい稀なる奇観なり	分部氏世々の 城下の地	水陸共に 幸多し	西に重なる 山青く	昔かしこき すめらぎと
		詣づる人の 絶え間なし	沿うて下れば 藤樹道	高島山の 奥深く	近藤氏の 墳墓あり	田園広く 開けつつ	若狭の国に 隣りせり	生まれ給いしよき地なり

8 高島唱歌

第4編 風俗・慣習

- | | | | |
|----|-------------|----|-------------|
| 19 | 若狭路に沿う 三谷村 | 27 | すすみて富ませわが郡を |
| 18 | 衆議公論 集めつつ | 26 | 誰もよく聞け 昔より |
| 17 | 郡の中央 今津港 | 25 | 登る道筋 剣熊を |
| 16 | 眩原 雲に連なりて | 24 | 眺めも飽かぬ 湖の上 |
| 15 | 知るや知らずや世の人は | 23 | 断崖絶壁 そぼだちて |
| 14 | 沖の白石 うち眺め | 22 | 知内の川筋 西庄村 |
| 13 | 木立小暗き谷間より | 21 | 北に進めば 百瀬村 |
| 12 | 近江に古き 朽木氏の | 20 | 郡の林の はじめなる |
| 11 | 安曇川筋の 広瀬村 | 19 | 水坂越ゆれば 天増川 |
| 10 | 父の王なる 彦主人の | 18 | 西近江路は 川上の |
| 9 | 伝え残れる 十八の川 | 17 | 郡の林の はじめなる |
| 8 | その水上は 朽木谷 | 16 | 北に進めば 百瀬村 |
| 7 | 足利義晴 その昔 | 15 | 今は養鯨 そのほかに |
| 6 | 流す筏は 安曇川の | 14 | 知内の川筋 西庄村 |
| 5 | 鮎 鱒 鮒の漁場なり | 13 | 北に進めば 新儀村 |
| 4 | 縮の本場と知られたり | 12 | 赤心報国 鰐にほり |
| 3 | 浅見綱斉 生まれし地 | 11 | 演習絶えぬ 饗庭村 |
| 2 | かみそり鍛冶の名も高し | 10 | 小浜に通ずる 若狭道 |
| 1 | 天津 長浜 塩津まで | 9 | 公会堂は 慶成館 |
| | 愈々 進歩をはかるなり | 8 | ここも名高き 林産地 |